

## 第2回（仮称）羽田連絡道路の景観に関わる検討会

### 結果概要

○開催日時：平成30年5月31日 9:30～12:20

○開催場所：現地（大田側大鳥居付近・川崎側河川管理用通路上）、五洋JV工事広報館2F会議室

○出席者：福井座長、赤木副座長、委員、事務局

○結果

- 鋼桁の色彩については、大田側大鳥居付近及び川崎側河川管理用通路上にて、7色の候補案を確認した結果、「色彩の考え方」（「第1回（仮称）羽田連絡道路の景観に関わる検討会」概要 P3 参照）との整合が図られるとともに、大部分を占める空や水面の背景景観への溶け込みと、橋梁単体としての存在感のバランス（釣り合い）が取れている②案の5PB7.5/0.5を色彩案として選定した。

○次回の検討会に向けた主な意見

- 歩行者空間の色彩については、「色彩の考え方」を踏まえ、周辺景観の大部分を占める空や水面の色彩と調和しつつ、温かみを感じるようなものとして、高欄・防護柵はアルミ素材色であるシルバー、歩道舗装については彩度の低いベージュをベースにして検討を進めるとともに、舗装材料についてもコンクリート平板ブロックに捉われずに維持管理やコストなども含め検討を進める。また、舗装面に注意を引くのではなく、歩行者が自然を感じられるような空間・質感を目指すため、コントラストの強い模様は避ける一方で、橋長が600mあるため、部分的なアクセントなどの導入についても検討を進める。
- 高欄・防護柵の形状については、「形式選定における景観の着目点」（「第1回（仮称）羽田連絡道路の景観に関わる検討会」概要 P3 参照）や「色彩の考え方」を踏まえた次の考え方に基づき安全面やコスト等も考慮し検討を行い、次回に案を提示する。なお、防護柵の設置基準では、安全面において縦桟形状が望ましいものとされているが、一方で、横桟についても、「高欄・防護柵のデザイン検討における考え方」における「多摩川河口の開放感」や「水平基調の景観に調和」に対して、好ましい面があることから、児童のよじ登り防止対策などの安全性を確認できることを前提として、総合的に検討を進める。

「高欄・防護柵のデザイン検討における考え方」

- ・ 多摩川河口の開放感を感じさせる
- ・ 水平基調の景観に調和させる
- ・ 先進性、落ち着きを感じさせる

（次頁に続く）

- 照明は、維持管理性や走行性の検討とともに、夜間における橋梁の見え方及び環境への影響について検討を行う。
- 環状8号線との接続部は、事業者間で整備案を取りまとめて、次回提示する。
- 殿町側との接続部は、通路との取り合いを考慮しつつ、歩道色の切り替え、親柱の位置を検討して、次回、整備案を提示する。
- 交通誘導の標識については、関係者と板面の内容を調整するとともに、支柱は板面に合わせた形状や色彩を検討すること。
- 親柱は、高欄・防護柵と合わせてデザインを検討する。

以 上